

感染症に関する話題—今そこにある危機—

東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野
准教授 青柳 哲史

感染症は病原微生物がヒトからヒトあるいは環境からヒトに伝播し発症する特徴があり、時・場所・人を選ばずに人類の脅威となることがある。21世紀に入りSARS感染症、H5N1鳥インフルエンザ感染症、2009H1N1パンデミックインフルエンザ感染症など新興・再興感染症、さらに薬剤耐性菌による病院内・市中感染症例の増加など解決しなくてはならない問題は多くある。臨床感染症を考えるうえで感染症に罹患している患者個人の問題から病棟・医療施設を超えて、地域全体に感染症が伝播蔓延・拡大し、危機的な状況を起こすことがあり、常に社会でどのような感染症が問題になっているかについて考慮しなくてはならない。

また、感染症を発症している患者は感染症を専門に扱っている医療機関を利用するとは限らず、明日にでも外来を行っている実地医家の先生方の目の前を訪れるかもしれない。

このような理由から本公演では現在、外来診療において感染症診療・感染管理の上で問題となるトピックな疾患である「麻疹・風疹」、さらにペニシリンの普及により先進国で診療機会が著しく低下した一方で病態・検査の解釈が比較的煩雑な「梅毒」をテーマに現在の問題点と診療上の注意点などについて講演を行う予定である。

講師略歴

- 2002年3月 東北大学医学部 卒業
- 2010年4月 東北大学大学院医学系研究科 卒業（感染制御・検査診断学専攻）
- 2010年7月 東北大学病院検査部助教
- 2014年4月 東北大学大学院医学系研究科感染制御・検査診断学分野講師
- 2015年3月 University of Michigan, Pulmonary and Critical Care Medicine, Visiting professor
- 2017年3月 東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野講師
- 2018年2月 東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野准教授
- 2019年4月 東北大学病院総合感染症科科長・特任教授